

令和2年度我孫子市自殺対策協議会 会議概要

(1) 会議の名称	令和2年度我孫子市自殺対策協議会						
(2) 開催日時	令和2年8月27日（木） 午後2時から午後3時まで						
(3) 開催場所	市役所議会棟 第一委員会室						
(4) 出席又は欠席した委員その他会議に出席した者の氏名 (傍聴人を除く) 出：出席 欠：欠席	委 員（市職員以外）						
	出	出	欠	欠	出	出	出
	出	出	出	出	出	出	出
	欠	欠	欠	出			
	事務局出席						
	社会福祉課（三澤次長、加崎主幹、高橋）						
(5) 議題	(1) 我孫子市の自殺統計について (2) 我孫子市自殺対策計画の現状について (3) 今後の自殺対策について						
(6) 公開・非公開の別	公開						
(7) 傍聴人の数 (会議を公開した場合)	傍聴人の数	0人					
(8) 会議の内容（概要）							
発 言 者	内 容						
○健康福祉部 次長挨拶							
○8月より委員が改選されたため委員自己紹介							
○会長、副会長の選出。事務局の提案に対し委員の異議がなかったため会長を蓑下委員、副会長を玉村委員として選出。							
議題 1 我孫子市の自殺統計について							
蓑下会長	それでは、議題に入ります。 議題（1）「我孫子市の自殺統計」について、事務局より説明をお願いします。						
事務局	まず初めに、自殺対策の現状について、ご説明させていただきます。						

自殺につきましては、主要先進7か国の中で、日本が、一番高く、自殺者数の累計は「毎年2万人」を超えるなど、非常事態と言える状況にあります。

市では、自殺対策を総合的、かつ効率的に推進するために、平成22年に「自殺予防対策に関わる関係機関、及び団体等で構成する「我孫子市自殺対策協議会」を設置し、市の自殺対策に取り組み始めました。

また、平成28年には「自殺対策基本法」が改正され、「自殺対策が“生きることの包括的な支援”」と位置づけられ、自殺を防ぐための計画策定が、義務付けられ、平成30年12月に、委員の皆さまのお力をいただき、「我孫子市いのちを支え合う自殺対策計画」を策定し、昨年度からスタートさせています。

自殺の原因は、健康問題や家庭問題、生活困窮など、様々な社会的要因や病気等が複合して起こることが、知られています。

また、その多くが、追い込まれた末の死であり、自殺は、個人の問題だけではなく、その多くが、防ぐことのできる社会的な問題と考えられています。

誰もが、自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指し、家庭・地域・NPO市民団体・学校・職場・専門機関等、様々な分野の人々や組織が連携し、生きることの包括的な支援を推進していくことが必要と考えています。

それでは、まず初めに、自殺の現状を説明させていただきますので、「資料3の平成31年 地域における自殺の基礎資料」の1ページ目をご覧ください。

お配りしました資料のデータは、厚生労働省の「自殺の統計：地域における自殺の基礎資料」から抜粋したものになります。

平成31年の全国の自殺者数は20,169人となり、前年から499人減少しています。

千葉県は自殺者数は965人となり、前年より80人減少しています。

本市の自殺者数は11人となり、前年より6人減少しています。

近隣市では、松戸市が6人、流山市が11人減少し、野田市が2人、柏市が1人増加しています。

自殺死亡率につきましては、全国では15.83、千葉県は15.29となっています。

なお、自殺死亡率とは、人口10万人に対する自殺者数です。

本市は8.32で、前年から4.52減少しています。

前年に続き全国、千葉県より下回ることになりました。

「平成31年の自殺者数の内訳」では、男女ともに、無職の中高年の方が、健康問題や経済・生活問題等により、多くの方が自殺に追い込まれています。

2ページの「地域の自殺の基礎資料」をご覧ください。

こちらは、我孫子市の平成21年から30年までの10年間の自殺者数や自殺死亡率等の累計データをまとめたものとなっています。

3ページをご覧ください。

「原因・動機別」では、「健康問題」としている方が132人と、全体の42.7%を占めています。

健康問題の内訳として参考値となりますが、県から提供のあった平成21年から27年までのデータによりますと、

「健康問題」のうち病気の悩みや影響としている方で「うつ病」の割合は45%、「統合失調症」の割合は8%、身体的病気の悩みが32%となっており、全体の85%が健康問題などの病気の悩みや影響で占めていることがわかります。

また、「家庭問題」としての内訳としては、家族の将来悲観、家族の死亡、その他家族関係の不和が、原因となっています。

	<p>5 ページ上の表は、我孫子市の平成21年から平成31年の男女別の自殺者数の推移になります。</p> <p>このグラフの通り、我孫子市で男女ともに近年自殺者数は減少傾向にあります。</p> <p>次に下の表は、我孫子市の年代・男女別年齢別のグラフになります。</p> <p>自殺者数の累計データは、全体で221人、内訳として、男性が148人、女性が73人となっています。</p> <p>また、60代と70代が40人と最も多く、その次に30代が38人となっています。</p> <p>男女比では、男性が自殺者総数の約7割（66.7%）を占め、女性の2倍となっています。</p> <p>男女別にみると、男性では60代が一番高い28人、30代が27人、50代が25人となります。</p> <p>女性は、70代が一番高く19人、その次に60代が多く12人と、60代から70代で42.4%を占めています。</p> <p>6 ページをご覧ください。</p> <p>こちらは、上の表が職業別自殺者数の累計となっています。</p> <p>職業別で一番多いのは、年金・雇用保険等生活者となっています。また、全体の69.2%が無職の方となっています。</p> <p>下の表は、原因別自殺者数の累計となっています。</p> <p>原因別では、圧倒的に健康問題が多くなっています。1 ページでもお話しした通り、健康問題の多くは、うつ病の方が多いようです。</p> <p>次に7 ページをご覧ください。</p> <p>こちらは、上の表が月別の自殺者数の累計、下の表は曜日別の累計を示したグラフになります。</p> <p>上の表をご覧くださいますと、1月、2月、3月が22人、5月、8月が21人となっています。</p> <p>また、下の表の曜日別では、「月曜日」が、最も多くなって、次に、金曜日の順となっていて、週の初めと終わりが、多くなっているようです。</p>
<p>蓑下会長</p>	<p>ただ今、事務局より自殺の現状につきまして説明がありましたが、このことでご質問やご意見などございますか。</p> <p>(意見なし)</p>
<p>議題2 我孫子市自殺対策計画の現状について</p>	
<p>蓑下会長</p>	<p>次に議題（2）「我孫子市自殺対策計画の現状について」、事務局より説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>計画につきましては、先ほども冒頭で、ご説明させていただきましたが、現状の把握と分析をさらに進め、効果的に自殺対策の施策を展開していく必要があることから、本市の自殺対策を推進する計画として、昨年度からスタートしています。</p> <p>また、市民の誰もが自殺に追い込まれることのない社会の実現に向けて、生きることの包括的な支援（自殺対策）をみんなで推進し、かけがえのない命を支え合うこととしています。</p> <p>なお、この計画では、いのちを支え合う施策として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民一人ひとりへの周知啓発と心の健康づくり ・適切な相談と支援につなげるネットワークの構築 ・命を支える人材の養成 ・様々な対象に応じた自殺対策の展開 <p>の4つを掲げています。</p> <p>また、施策にぶら下がる、施策の推進としての「取り組み状況は、9つ」、「主な取り組みは、93事業」となっています。</p>

それでは、資料5の評価指標一覧に基づいて説明します。
 こちらは、「我孫子市いのちを支え合う自殺対策計画」の評価指標の昨年度の実績になります。
 今回は、2018年度から2019年度にかけて実績が低くなった指標についてご説明します。
 まず、指標④の「地域における高齢者の参加の場への延べ参加者数」です。担当課に確認したところ、こちらは昨年度末から流行している新型コロナウイルス感染症により、施設等が休館したことや、3密を避けるための対策等から参加者が減少したとのことです。
 次に指標⑤の「生活困窮者自立支援制度に伴う支援プラン実施件数」です。こちらは、窓口等に相談が来て話を聞き、内容に応じて支援プランを立てることになった件数になります。昨年度は支援プランを立てる相談が減少したということとなります。最後に指標⑥の「勤務問題に関する相談を受け、相談者に対して適切な情報提供や助言した延べ件数」です。こちらは、昨年度は相談件数が少なかったため、減少したとのことです。
 また、我孫子市いのちを支え合う自殺対策計画のサブタイトルにもあります、「ゲートキーパー」についても説明させていただきます。
 昨年度は、市役所職員、傾聴ボランティア、民生委員等、計5回ゲートキーパー研修を開催し、449名が参加しました。
 その中でゲートキーパーの役割を知っていた方が36.5%とまだまだ知らない方が多いことが分かりました。
 また、受講者の中で今までに自殺に関する相談を受けたことのある方は17.2%でした。
 相談を受けた中で困ったことがあるかとの質問の中で回答が多かったものは「死にたいと言われてなんて答えれば良いかわからない。」や「心の窓口を勧めたが断られた」でした。
 自殺に関する相談を受けた際に、「声かけ」や「つなぎ」をより多くの方に知ってもらうことが自殺者数減少に繋がると考えられます。
 研修会に「声かけ」や「つなぎ」の内容も重点的に組み込んでいこうと思います。
 そして、様々な分野の人々や組織が密接に連携し、誰も自殺に追い込まれることのない、みんながゲートキーパーのまち「我孫子」を目指し、かけがえのない命を支え合います。

蓑下会長	ただ今、事務局より自殺の現状につきまして説明がありましたが、このことでご質問やご意見などございますか。 (意見なし)
------	---

議題3 今後の自殺対策について	
-----------------	--

蓑下会長	次に議題(3)「今後の自殺対策について」、事務局より説明をお願いします。
------	--------------------------------------

事務局	昨年の12月から全世界で新型コロナウイルス感染症が流行しています。各地で緊急事態宣言等が発令され、生活や仕事等に大きく影響が出ています。我孫子市でも「新型コロナウイルスの関係で仕事が減り、生活ができない」等という相談が来ています。新型コロナウイルスの流行が落ち着いたとしても、多くの方が生活や仕事等について困惑することが予想されます。そして、自ら命を絶つ方も増えていくかもしれません。そういう方が出てくる前に、相談窓口はもちろん、「ゲートキーパー」の役割が重要になってくるのではないかと考えています。 身近な人の変化に気づき、専門機関につなげることができれば自殺を未然に防ぐことができるかもしれません。そのためには、「ゲートキーパー」の役割を知っている方を増やしていかなければなりません。皆様の職場等で、今回我孫子市が作った自殺対策のリーフレットを配布できる場所や、今後、ゲートキーパーについての研修ができる機会等があれば声掛けを頂ければと思いますので、ご協力をお願いいたします。
-----	---

また、5月に厚生労働省と厚生労働省が自殺対策事業について委託している「いのち支える自殺対策推進センター」が開催した自殺対策担当者研修がありました。その内容についてお話しします。

まず、自殺対策は「生きることの包括支援」です。

自殺対策として特別に取り組むことと共に、同時に自治体等の関連部局が日常業務を行う中で連携をし、工夫することで市民の方々の日常生活を支え、結果として自殺対策に繋がっている事業が多々あります。

資料6「新型コロナウイルス感染症拡大下において取り組む自殺対策」をご覧ください。

こちらは、いのち支える自殺対策推進センターが提案した新型コロナウイルス感染症による自殺対策に関する提案です。

この中の取組として、重点的に捉えているのが2の「住民への安心感の発信とセーフティーネットの積極的な活用」と7の「今後の自殺リスクの高まりが懸念される要配慮者への支援」です。

まず、2の「市民への安心感の発信とセーフティーネットの積極的な活用」についてです。

新型コロナウイルス感染症の影響を受けて危機的な状況にあることに関して、市民の方に安心感を持ってもらうことが大切です。

安心感を持ってもらうために、セーフティーネットを積極的に活用し、必要な情報を必要な市民の方に伝える、支援が必要な人に必要な支援を提供することが大切です。

次に、7の「今後自殺リスクの高まりが懸念される要配慮者への支援」についてです。

高齢者の方は重症化する可能性が高いと言われていることから、感染症予防のために、デイサービスが閉鎖されたり、散歩や買い物等の外出を控える事等から、活動量が低下し、身体機能や認知機能の低下の進行が加速したり、不安や抑うつが強くなることが懸念されます。

また、妊産婦の方は健診等が制限されることで孤立し不安の高まりや抑うつ状態が強くなることなどが懸念されます。

それ以外にも、長期休み明けに子どもの自殺が増加する傾向がありますので子どもへの支援、情報が届きづらい障害者への支援、言葉が通じにくい外国人への支援、ひとり親家庭のような忙しく情報が届きづらい方への支援、このような方以外にも様々な方の支援が重要となりますので関連機関と協力して支援をすることが大切です。

蓑下会長

ただ今、事務局より今後の自殺対策について説明がありましたが、このことでご質問やご意見などございますか。また、全体をとおしてご質問やご意見などございますか。

今はコロナで教育機関ではオンライン授業を行っているところもあります。また生活困窮者も増えてくるかと思いますが、市では司法書士と臨床心理士の相談会をされていたかと思いますが、今年も開催するのでしょうか。

事務局

相談会については、毎年相談者が少ないため昨年度から開催しないこととなりました。

蓑下会長

そうなんですね。資料4の10ページの付表には自殺につながる例が書かれているのですが、たとえば実際にこういったケースに関わってうまくいった例があればそれを漫画にしてホームページに掲載するなどアピールするのもいいのではないかと思います。そこから相談を希望する方にはオンラインで司法書士の相談につなげていくということもできるかと思います。

玉村委員	昨年度、ほっとねっとが関わっていた方で自殺された方は二名でした。お二人とも年齢、病名は違いますが共通しているのはそれまで継続していた支援が切れたことがきっかけだったかと思います。既存のケースで継続的に関わっていたのですがたとえばそれまで障害でサービスを受けていた方が65歳になり、障害から高齢のサービスへと切り替わると今まで通りのサービスが受けられなくなる。そういうところを丁寧にやっていかなければと思いました。また、先ほどゲートキーパー研修のお話がありましたが、ほっとねっとは24時間365日相談窓口を開いています。そうすると自殺したいという相談があるのは夜間が多いのですが、とにかく話を聴く、それだけで落ち着くことも多いです。相談者の話に共感し、うなづくことで30分くらいで落ち着くので、声かけやつなぎはもちろん大事ですがその前に聴くことが重要だと思います。話の受け止め方を研修に盛り込むとさらに良いのではないかと思います。
鈴木委員	資料5の④のお休み処についてですが、お休み処をもっとうまく使えたらという思いがあります。お休み処は、参加されている方は毎日のように参加されているのですが心配なのはお休み処を利用せずずっと家にこもっている高齢者だと思います。そういった方に対してお休み処を利用しやすいようにできればと思っています。また、資料5①のゲートキーパー研修ですが、昨年民生委員でゲートキーパー研修を受講しました。民生委員の中からは、ゲートキーパーの役割が大切なのはわかるけれど重い、自分にはできない、という声も聞かれました。そんなに重く考えずにもっと気軽に考えればいい、という話はしましたが、研修の中で日常的なことを具体的に知る機会があればもっと身近になるのかと思いました。
蓑下会長	小中学校からそういった、話の聴き方のような授業があればいいですね。やはり子供の頃からの教育は大切だと思います。
鈴木委員	認知症サポーターは小中学校でも授業があって子どもたちもよく学んでいます。ゲートキーパーも違う形で学ぶ機会があればいいと思います。
蓑下会長	他に意見はございますでしょうか。 では最後に、事務局から何か連絡事項はありますかでしょうか。
事務局	本日は貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。 なお、議事録を作成し、皆様にご確認をいただいた後ホームページに掲載させていただきますので、ご了承ください。 本日は、会議にご出席いただきまして、ありがとうございました。 事務局からは以上でございます。
蓑下会長	それでは、これを持ちまして、令和2年度第1回我孫子市自殺対策協議会を閉会いたします。本日はお忙しい中ありがとうございました。
以上	